



第27回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。

前回のスゴイ人、橋口由紀子さんにご紹介いただいたこの方は、「戻ってきたとき、いつも笑顔で挨拶してくれてとても嬉しくって。スゴイ素敵な人」とのこと。インタビュアーは、三浦恭子でお届けします。

【今回のスゴイ人】

森園ひとみさん



今回は、財部タクシーを支える一人、笑顔が素敵な森園ひとみさんにお話を伺ってきました。

ひとみさんは、生まれも育ちも財部町。進学で一旦外に出ましたが、両親との約束もあったことから帰郷。目の悪い母を看ながら、保育士として働いていました。その後、高校の同級生で、財部タクシーの二代目である旦那さんと結婚。そこから、ひとみさんも一緒に財部タクシーを支えるべく、二種免許と運行管理者の資格をとりました。

「運行管理者として、ドライバーのシフト作成や健康管理のチェックなども行っています。人や車の安全を管理する上で必要な国家資格なんです」

他にも、経理や事務、福祉タクシーを担当しながら、欠員あれば、思いやりタクシー、病院送迎など運転手としても活躍しています。

「多くの方の《足》でありたいなと思っています。乗ってくれた方に『ありがとう』って言われると、本当に嬉しくなります。こちらこそ頼んでいたたいがありがとうございます、ですよね」

人に喜んでもらうのが嬉しいというひとみさん。去年の6月から財部で「Zon. (ゾン)」という飲み屋を夜に開いていて、始めたキッカケは人からの相談でした。

「夫婦で考えて、これ以上街の灯りが消えてしまうのは寂しいと思ったんです」

町と人を想うひとみさん。早く何か一緒にやりたいですね！



協力隊の活動報告

芸術の秋！ ということで、そお学校でも発足した、その名も「版画部」。以前、「実は隣のスゴイ人」の取材でお会いした、財部町の木口版画作家である松園さんと一緒に、「木口版画」を体験する全2回の部活動です。定員の5名はあっという間に満席。人気うかがえます。

1回目は、松園さんの下絵を木になぞって、そこから彫り、そして刷るところまでという大仕事。みなさん、初めて使う道具に苦労しながらも、手先が器用な方ばかりだったおかげで、どんどん進んでいき、見事完成させました。2回目には完成した作品を手みんな「もっとここをこうしたい」など、次回への意欲も。また来年に版画部の活動ができればと思っています。これを読んで興味を持った方はぜひ、お楽しみに！



2018年10月28日

三浦恭子